



王喜の郷の輪 第34回

ケアハウス王喜の郷入居者へのインタビュー

敬老の日を前に「古希 傘寿 卒寿」それぞれ節目にあたる四名の方に感想や抱負など、お気持ちを話して頂きました。



K. K様 古希

「これからも病む事もなく、安全に暮らしていければ良いかと...」

T. N様 傘寿

「王喜の郷に来て2年になります。私事です、リハビリセンターテクラに行っています。午後1時から5時迄色々な器具をつかって楽しくやっています。これもひとつの役目と思っています。あと5年は続けていきたいです。」

K.T様 卒寿

「まさか自分が90歳まで生きているとは思わなかった。目がほとんど見えないので、これ以上進まないこと、悪くならない事が望みです。」

A. K様 卒寿

「敬老の日に関心を持って、振り返って、人生を思うように漫然と生きてきて、特に残す事もせずに生きた反省があります。人生は一生懸命な努力が必要です。それと多くの方々の支えがあった事です。一人で生きていく事は出来ません。今の時代、人生100年と言われ長い努力が必要とされます。茶人の千利休の残した言葉に『稽古とは一より習い、十を知り、十よりかえるのもその一つ』というのがあります。自分もささやかではありますが、千利休の言葉を努力目標に一日一日を大切に生きているつもりです。」

日本映画を支えた女優

忘却とは忘れ去ることなり。忘れえずして忘却を誓う心の悲しさよ...このフレーズを聞いて懐かしいと思われる方も多いことでしょう。昭和27年から2年間に亘り毎週木曜日にNHKラジオで放送された菊田一夫、原作のラジオドラマ「君の名は」の冒頭部分のフレーズです。このラジオドラマは空前の大ヒットとなり全98回が放送され、放送中は銭湯の女風呂が空になったという伝説も残しました。昭和28年には松竹映画が映画化、ヒロインの氏家真知子を演じたのが先日、訃報が報じられた岸恵子でした。映画も空前の大ヒットとなり第3部まで作られ昭和28年、昭和29年の2年間は日本中が「君の名は」ブーム一色となりました。ちなみに氏家真知子を演じた岸恵子の相手役として後宮春樹を演じたのが後年、37歳という若さで事故死した佐田啓二でした。如何に「君の名は」ブームが凄かったかという昭和28年、29年に出生した新生児の名前で一番多かったのが男の子が「春樹」、女の子が「真知子」だったというデータが残っています。そして、氏家真知子のストールの巻き方を「真知子巻き」と呼び当時の女性から子供までが真似るほどでした。しかし、岸恵子は「君の名は」の空前の大ヒットにより氏家真知子のイメージがあまりに定着してしまい後に俳優として悩むことになりましたが、見事にイメージを打破して昭和30年代には国際派女優へと成長を遂げました。その後は、フランスを拠点として日本とフランスを行き来しながら映画やテレビドラマ、エッセイストとしても活躍しました。この時期の作品で大変に印象に残っているのは映画では「男はつらいよ 私の寅さん」と「悪魔の手毬唄」、ドラマでは向田邦子の小説をドラマ化した終戦特別企画ドラマ「言うなかれ、君よ、別れを」です。そして、晩年は自らが横浜大空襲を経験したことから平和の尊さを訴える朗読劇に力を入れて開催していました。今年5月、著書「91歳5か月」が発売され読了して間もなかったこともあり、昭和の時代を飾った名優の急な訃報にショックを受けています。

ミントの家 山根 徹

たんぽぽ通信

9月1日発行 235号
ケアハウス王喜の郷 令和8年9月号

Webページ <http://www.ryokujukai.jp>

巻頭言

9月1日は防災の日です。私どもも災害が起こることを前提にして、起こった時にいかに被害をくいとめるか、被災前の日常生活に戻すかを訓練しています。さて7月28日の熊本2026地震は、約40名の死者を出し、現在まだ復旧の途上にあります。王喜の郷からも熊本に9月には介護の支援として3名が5日間ずつ特別養護老人ホームへ参ります。介護は被災直後より時間がたつにつれ支援が必要とされてくると思います。排泄介助などの身体的な介護もありますが、寄り添って被災者を支えることに力を発揮するのではと考えています。今回行く3名は2024年の能登地震の時にも支援に行っています。体調を整えて頑張ってくれるように願っています。地震ではありませんが、8月26日に発生したネパールの大洪水は邦人5人を含み4千人近くの死者、不明者になりそうです。この大洪水がどのように説明されていくか興味深いものがあります。地球温暖化が喧伝され、私どもも毎日暑さにうだっています。温暖化は暑さだけではなく自然や自然界のあらゆるものが影響を受けていることに気付かされました。難しいですが、生活のあり方を考えていきたいと思います。

施設長 末谷千秋

厨房では週に一度手作りデザートを提供しています。

🍰 9月のデザート 🍰

- ①いちぢくのケーキ
- ②ベトナム風ぜんざい
- ③トマトゼリー

どうぞお楽しみに！

M.S様
入居されました。

M.Y様
退居されました。

9月のお誕生日＆行事予定

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7 白露 K. M様 誕生日	8	9 重陽の節句	10	11	12
13	14 M. M様 誕生日	15	16	17	18	19
20 秋の彼岸入り	21 敬老の日	22 国民の休日 A. M様 誕生日	23 秋分の日	24	25 十五夜	26 秋の彼岸明け
27 N. H様 誕生日	28	29	30			

*誕生日: お名前記載の方の誕生日です。

**ビューティヘルパー: 出張の理美容です。食堂白板に「料金表」と「申込み書」を貼っています。
料金はその場で現金支払いです。

ケアハウス王喜の郷 8月1日から厨房で働かせて頂いてます武居真由美(たけすえ まゆみ)と申します。 入社して、あっという間に1ヶ月が経ちました。少しは慣れてきましたが、まだまだわからない事が多くあります。 ここでは、旬の食材を使った料理を大切にしている事がとても伝わってきます。 これからも皆さんに喜んで頂ける食事作りを頑張っていきますので宜しくお願い致します。  調理師 武居真由美	王喜の郷デイサービスセンター 暦の上では秋ですが、毎日、暑い日が続いています。気が付けば、今年も残すところ4ヵ月となりました。 今年は、冬季オリンピックやサッカーワールドカップ、高校野球甲子園大会等のスポーツの大会が開催されました。利用者の皆さんは、お気に入りのチームや選手の活躍に一喜一憂され、デイサービスのフロアーは大いに盛り上がっていました。 9月25日には、8月・9月生まれの方の誕生会がケアハウスと合同で行われます。今回はピアノ教室の講師の方をゲストにお迎えし、ピアノ演奏やトークで楽しんで頂く予定ですので、ご期待下さい。 秋本番まではもう少し時間がかかりそうですが、体調管理に十分気を付けてお過ごしください。  介護職員 前田 里葉	グループホーム王喜の郷ライム 毎日、厳しい暑さが続いています。水分や食事の摂取量は減っていませんか？ ライムでは、水分補給の声かけをこまめに行い、水分摂取量が少なくならるように気を付けています。食事の摂取量も確認し、主食や副食、たんぱく質の量を把握しています。 毎日の外気浴では、入居者の方の体調を確認し、無理の無いように外の空気を感じて頂いています。外に出ると「やっぱり外は暑いね。でも外に出るのは良いね。」「きれいな青空。」等、様々な声が聞かれます。 まだまだ暑い日が続きますが、暑さに負けないように体調管理に気を付けていきたいと思います。  介護職員 大枝 美保	グループホーム王喜の郷 強い日差しで快晴の毎日ですが、体調が崩れやすいときでもありますので、水分不足で脱水にならないように水分補給をしっかりと、生き生きとした毎日を過ごしましょう。私は母国(インドネシア)を離れて日本に来て王喜の郷に出勤し始めてから2年以上も経ちました。毎日仕事仲間の先輩たちから、正しい介助やケアはもとより利用者からも今まで知らなかった事や日本の文化、例えばお盆は先祖の霊を自宅に迎えて供養する夏の伝統行事を教えていただき知ることができました。 日常のケアの中でも、「ありがとう」と笑顔で言ってくさって、疲れが一気に吹きとんで、私の毎日のパワーの理由です。これからも笑顔とやさしさがあふれる皆様の毎日になるように、心を込めて努めたいと思います。  介護技能実習生 シヤファイラ・ハヌン・ムアマナ
王喜の郷居宅介護支援センター 先日ヘルパーと利用者さんとの会話を耳にしました。ヘルパーが「これは洗った方が良いと思いますが、どうしましょうか？」と尋ねました。 利用者さんは「洗ったらいいですね、自分で出来ます」とニコッと笑って答えられました。その利用者さんも初めはヘルパーに洗濯機の使い方を教えてもらい、一緒に行いながら覚えられたようです。 介護サービスは自立した日常生活を送るための支援です。出来なかった事が出来る様になるとご本人の自信にも繋がり、意欲がもてるようになります。 私たちケアマネージャーも利用者さんと各事業所と連携し自立に向けて、より良い支援ができればと思います。  介護支援専門員 石川 ゆかり	王喜の郷ホームヘルプステーションいるか 今年の中秋の名月は9月25日(金)。満月は9月27日(日)と、新暦旧暦の関係で2日ほどずれが生じているそうですが、十分に美しい丸い月を楽しむことができます。晴れるといいですね。 また、シルバーウィーク(連休)も真ん中に敬老の日があります。沢山の経験を重ねてこられ、古希・喜寿・傘寿・米寿・卒寿の節目を迎える方々がいらっしゃいます。 ヘルパーの役割は「利用者の日常生活の自立を支援する」とされています。実際は、利用者様から笑顔や感謝の言葉をいただき、元気をもらったり助けられていると感じることが何度もあります。いつも、ありがとうございます。 人生の先輩であり、経験豊かな皆様へ感謝の気持ちを込めて、祝敬老の日、おめでとうございます。  訪問介護員 山本 美弥子	王喜の郷ミントの家 シニアハウス王喜の郷 子供の頃、大人が「お盆を過ぎたら涼くなって過ごしやすくなる」と言っていましたが、それは遠い昔の話となっていました。先日、ミント・シニアハウスの利用者も「さくら夏祭り」に参加させていただきました。皆さん子供たちを前に童心に返り、昔懐かしい水風船釣りや金魚すくいを楽しまれている様子でした。午後からは皆さんと来年50回目を迎える下関で最大のお祭り「馬関まつり」の話題になり、「平家踊りを踊ったことがある」や「平家踊りを観に行ったことがある」、「総踊りは唐戸でやっていた」など話題が広がり盛り上がっていました。また、平家踊りの作法ひとつひとつに意味があるという事も教えていただきました。利用者の話を通し、改めて昔から地域に根付いた伝統芸能や伝統文化の継承の重要さを感じました。  介護職員 山根 徹	放課後等デイサービス さくら 子ども達が楽しみにしていたプールと「さくら夏祭り」を今年も無事に終えることができました。 プールでは、水に入る前の約束事を支援員が子どもたちに話すと真剣に聞き、一人一人気を付ける様子が見られました。お友達や支援員と水をかけ合ったり、ジョウロや手作りの玩具を使って、水遊びを楽しんでいました。 夏祭りではミント・シニアの利用者様と職員の方々に参加していただき交流を行いました。普段、友達口調で話す事が多い子どもたちですが「次はどのゲームをしますか？」「これ、どうぞ」など、丁寧な言葉遣いで自ら声をかける様子がたくさん見られました。参加された保護者の方々からも「楽しかった」「また来年も参加したい」とのお言葉をいただきました。子ども達にとって貴重な交流の機会となりました。  さくら支援員 松下 美由紀